

令和7年度 第3回 地方独立行政法人大牟田市立病院評価委員会 議事要旨

日 時： 令和7年8月12日(火)午後3時00分から午後3時45分まで
場 所： 大牟田市役所北別館4階第1会議室

○地方独立行政法人大牟田市立病院評価委員

一宮委員長、富安副委員長、河野委員、池上委員、赤星委員
事務局等： 松鳥保健福祉部長、龍保健福祉副部長、大曲保健衛生課長ほか
鳥村理事長、倉本副理事長、村上理事、福森理事、森崎理事、城戸理事ほか

1 開 会

2 議事要旨

(1) 第4期中期目標期間の終了時の検討及び措置(案)について

事務局から、資料①に基づき、第4期中期目標期間の終了時の検討及び措置(案)を説明後、質疑応答。概要については、次のとおり。

●第4期中期目標期間の終了時の検討及び措置(案)については、妥当である。

(2) 第4期中期目標期間の終了時の検討及び措置(案)に対する意見書(案)については、次のとおり。

●異議なく、了承される。

(3) 第5期中期目標(素案)について

事務局から、資料②-1、②-3に基づき、第5期中期目標(素案)を説明後、質疑応答。概要については、次のとおり。

●資料②-3の3ページ、第2-2-(2)救急医療の取組を重点にすることは、大変大切なことだと思うが、公立病院の86%が赤字に陥っており、救急や小児等、不採算部門を担う病院ほど赤字になっているのが現実。救急医療を重点とする目標は、大変厳しい状況かと思う。診療報酬を含め変わらないと、增收しても、それをはるかに超える支出、物価上昇、人件費の上昇に、届かないのが現実。行政や自治体病院の団体も強く国に訴えていただきたい、地域の医療を守ることに努めていただきたいと思う。医師会や多くの医療団体において、この国の医療がもたないという危機感が強まっているので、自治体病院も一致団結して、意見を述べて欲しいと思う。

●令和8年度に地域医療構想がスタートするが、大きな動きがあると思われる。救急、小児周産期などの医療圈を広域にせざるをえないということ。県跨ぎもありと書き込まれており、大牟田市は大牟田近隣の他の医療圏における救急を担えない地域をカバーしないといけないかもしないし、熊本県、隣の荒尾市との連携を求められるようになるかもしれない。医療圏に急性期の拠点病院をいくつか作り、現在急性期を担ってる病院が、レベルを落として高齢者救急などを担い、役割分担を明確にしようということ。大牟田市立病院はこの医療圏の中では、急性期拠点病院を担わないといけないかと思う。人材だけでなく、集約化というような話も出てくると思う。大牟田市だけではなく、有明医療圏、近隣の医療圏を含めて、大牟田市立病院は大切な病院だと思う。行政の支援はもちろんだが、病院として、頑張っていただきたいし、頑張り見合った収入が得られるような制度になって欲しいと思う。先生方も職員の皆さんも一緒にになって訴えていただければと思う。

●資料②ー3の4ページ、第3ー2ー(3)DXの推進が追加されているが、病院が全部負担するのか、または行政が負担するのか。

今、電子カルテの更新を予定されており、そちらの起債に関する手続きや、様々な償還に関する部分については行政で調整しているところ。

●電子カルテに比べると、遙かに額は小さいが、マイナ保険証の普及に向けては、小さなクリニックはその費用、メンテナンス、更新といった費用が、非常に厳しいとの声が上がっている。DX電子カルテ以外にも様々なDX、例えばオンライン診療等の経費は、病院の中から出す仕組みになっているのか。追加で行政が補助するとかあるのか。

今の段階で説明にあった個別の取り組みに補助をするような検討はまだしていない。今は既存の運営費負担金の中での対応と考えている。

●市立病院であり、そういうデータは行政の方でもいろんな使い道があると思うので、行政でカバーして欲しい。

●資料②ー1の1ページ中期目標のポイント④の「効果的な医療提供体制を確保し」という文言で、実際、市立病院と近隣の病院の間での役割分担で特に救急に関して、今後はどのように考えているか。病院間で話し合いをする取組等は考えているのか。今後それが必要になると思う。高齢者救急は増えてきており、この夏も熱中症で高齢者が運ばれる状況で、おそらく市立病院も大変な状態になってると思う。軽症の方は役割分担で棲み分けをして、救急で助かる命に関して助けていかないといけないと思う。

具体的に病院間での役割分担の話は現在まだしていないが、必要性は十分、感じている。どのように役割分担するのか、どこかで音頭を取ってもらえたと思う。今後、地域医療構想などが定まり、その中で役割分担についての具体的な話が必要だと思う。

●地域医療構想では救急や小児周産期は、圏域が広がるので、近隣の先生方に参加してもらいたい、地域の現状を共有しながら、議論を進めていけるよう県行政に意見したいと考えている。また、地域医療構想調整会議以外にも行政主導でやっていただけるといいと思う。大牟田市立病院は、もっと様々な事を求められると思う。何とか頑張っていただきたい。

●資料の②ー3の4ページ、第3ー1人材確保と育成に関して、事務部門の方の病院経営の専門知識や経営感覚に優れた人材育成を書かれてるのは素晴らしいと思う。そこに関連して、医療DXの推進では、今後4年間で、医療DXを実際に使える人材の育成もあわせて必要だと思うが、何か考えはあるのか。

育成が大切だと認識している。現在、DXに詳しい職員もあり、若手への伝達・指導により、次の世代を担うように教育も現在やっている。今後、事務局職員採用もDXに長けた実績がある方を経験者枠で採用するなど、日進月歩のDXに対応できるような人材を確保していきたい。

●事務部門の方だけでなく、看護DXにおいても看護師として、AIやChatGPTも使いこなしていかなければいけないと看護協会の2040年プランの中で出ているため、その点も検討いただきたい。

●私の病院も随分前から、民間企業から地元の病院で働きたい方を採用して非常に助かっている。従来の病院事務では対応が難しいことが出てきており、人材確保育成は極めて大切だと思う。看護部の勤務表作成もソフトを入れ、RPA化を進めることも必要と思う。

3 閉 会

本日の審議内容を踏まえ、9月にパブリックコメントを実施し、次回の委員会において、第5期中期目標の最終案を審議の上、12月議会に提出することを説明。また、次回委員会の予定等を報告し、会議を終了した。